

平成24年度 学校評価実施報告書

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① H P のホットニュースの更新, 学校案内の刷新, 「千葉北だより」の発行を行い職員8割, 保護者7割の肯定的評価を得た。学校説明会時の中学生のアンケート結果から, 6割以上がH P を閲覧し, 9割以上が内容がみやすい, 高校選びの参考になると回答しており, 当初の目標を達成できた。本校生徒のH P に対する肯定的評価が低い。緊急時の対応についての情報提供については年度内に整備する予定である。</p> <p>② 学力向上検討委員会において生徒に学習に関するアンケートを実施し, その結果も踏まえて, 進路指導, 家庭学習が必要な授業の工夫, 授業アンケートの実施の3つの方向性を出すことが出来た。</p> <p>③ ミニ集会を中心に, 授業改善につながる提言を得ることができた。</p> <p>※ 防災訓練や地域行事への参加により, 地域と連携を深めることができた。</p>	<p>① H P の部活動のページが更新をしやすい方法を工夫する必要がある。生徒の求めている緊急時の対応についての情報提供システムを改善していく。</p> <p>② それぞれの方向性について, 具体策を明確にし, 実施して行く。</p> <p>③ 今後も学校関係者評価を継続する。</p> <p>※ 地域との連携を視野に入れた防災計画の見直しが必要である。</p>
学習指導	<p>① 年間計画に基づいて研究授業や公開授業を実施し, 教員や保護者が参観でき, 互いに良い刺激となり, 授業改善に結びついた。授業アンケートを実施し, 他の教員の授業を参観した教員は3割を占めた。</p> <p>② 2・3年次の科目選択において, 将来の希望に結びつく説明・選択・決定を行うことができた。</p> <p>③ 11月に学校評価アンケートを実施した。生徒の授業に対する満足度は, 昨年度同様5割程度で, 教員は昨年度に比べ, 学習指導の創意工夫, きめ細かい指導などに厳しい自己評価を下し, 教員と生徒の評価結果の差が縮まった。</p>	<p>① 今後とも研究授業や公開授業を継続し, 他の教員の授業や生徒の授業アンケートの結果を受けた授業改善に取り組み, 充実した授業を展開していく。</p> <p>② 1・2年次にしっかりと基礎を固め, 3年次授業アンケート実施に取り組み, 多岐にわたる生徒の興味・関心・進路希望に対応した学習指導体制を構築する。</p> <p>③ 引き続き改善に努める。また, 保護者・生徒のアンケート結果では, 家庭学習の少なさが昨年と同様に指摘されている。家庭学習が必要となるような授業展開を全校で取り組んでいく。</p>
生徒指導	<p>① 遅刻者数は2学期において1学期の2倍となり, 指導の徹底がなされなかった。一方, 皆勤者数は2学期終了時点で45.5%と昨年度より10%増加, 三カ年皆勤は78名(21%)と増加している。</p> <p>② 教育相談については, 教育相談体制を整備し保健室・相談室・学年・担任が連携を取りながら適切に対応ができた。相談の件数も減っている。</p> <p>③ 年3回実施しているいじめに関するアンケートでは, 特に「いじめ」と思われる事例はなかった。</p> <p>④ 年3回の登校指導の実施により登下校時の生徒の状況に改善がみられた。</p> <p>⑤ 制服の正しい着用指導を展開することにより改善傾向がみられた。</p>	<p>① 余裕のある生活を提唱する。(遅刻の多い生徒には, 従来どおり早朝登校を課して生活リズムの改善を図る) 家庭の事情によるところもみられるため家庭との連携を密にしていく。</p> <p>② 今後も各担当者との連携を密にしながら生徒の心身の健康育成を図る。</p> <p>③ 自分だけではなく他人の「人権」も考えられるよう「思いやり」を提唱する。</p> <p>④ 通学時のマナー向上のために「早めの行動」によるゆとりある生活が送れるよう, 早朝登校と通学時にまわりの人への気配りを提唱する。</p> <p>⑤ 年度当初に家庭にも呼びかけて, 指導の徹底を図る。</p>
キャリア教育	<p>① 生徒の進路希望実現にむけてよく努力しているという回答は, 教職員77%, 保護者62%で, 昨年同様差が認められた。</p> <p>② 1学年は年3回(10月進路講演会等), 2学年は年3回(12月上級学校模擬授業等), 3学年は年5回(5月専門学校ガイダンス, 8月推薦入試説明会, 9月面接ガイダンス等)の進路関係行事を実施し成果を上げることができた。</p> <p>③ 各種ガイダンス等の有効な対策が取られているという回答は, 教職員86%, 生徒66%の約20%の開きは昨年同様だが, 教職員・生徒の評価はどちらも昨年より若干高かった。</p>	<p>① 進路に対する保護者への情報提供が不足している事が考えられる。学年保護者会などの場を活用していく。</p> <p>② 上級学校ガイダンス等学年をまたいで行われるものは, 会場の確保や備品の用意など, 綿密に行う。又, 3年間の段階的, 継続的な指導が行われるよう計画を練り上げていく。</p> <p>③ 生徒はガイダンス, 外部模擬試験などの重要性にあまり気づいていないので, 事前指導を通じた意識づけに重点を置く。</p>
特別活動	<p>① L H R に計画性があると答えた教職員が大幅に増え8割5分程度となった。生徒がH R 活動で自分の役割を理解していると答えた割合はほぼ前年並みの8割程度であった。</p> <p>② リーダー性・自主性を育成しようとする教職員が昨年度の8割弱から7割5分へと減少した。逆にクラスがまとまるように心掛けている生徒は7割5分に増加した。</p> <p>③ 各行事への取り組みに関して生徒の9割弱, 保護者の9割強が肯定的な意見であった。また, 教職員も9割4分が参加を肯定しており, この点で認識が共通していることが明らかになった。</p>	<p>① 唯一ポイントが下がったのは教職員の「自主性リーダー性の育成」の項目である。自主性・リーダー性を育成するために, 生徒自らが運営する基盤はあるので, H R 活動の取り組みに対する教職員の意欲を引き続き一層高めていく。</p> <p>② クラスがまとまるように心掛けている生徒の割合が高くなりつつあるので, 周囲の状況を理解できる力の育成と自制心の養成の意義について, 生徒と教職員がさらに認識を深めるように努めていく。</p> <p>③ この状態を維持できるように, 学校行事に臨む現在の体制の継続及び強化を図っていく。</p>

<p>特色ある教育活動</p>	<p>① 総合的な学習の時間は計画的に運営されている。「国際理解」の学習については、保護者からは一定の評価を得られ、生徒からの評価は昨年度より1割程度アップした。</p> <p>② 「国際理解セミナー」の内容についての評価は直後のアンケートでは7割程度が良好と答えており、「異文化理解に努めたい」「ためになった」等の感想が見られた。否定的な意見はさほど見られなかったが、年末になっての調査ではさほど高はなくなっている。特に学年が低いほどその傾向が見られる。</p> <p>③ 10月に授業公開を行い、延べ74人の参観があり、本校の授業や生徒の様子について、ほぼ良好な評価を得ることができた。</p>	<p>① 「国際理解」教育に関して、保護者からは一定程度の評価を得られたが、生徒からの評価は依然として、中程度にあることを考慮し、生徒の興味・関心を再度しっかりと把握した上で、内容のさらなる充実を図っていくよう検討を要する。</p> <p>② 「国際理解セミナー」は今後とも継続する。その内容についての評価を左右する講師の人選には、更なる工夫・改善が必要である。また、講演会場の後方の音声の聞き取りにくさなどもあったので準備段階での改善を要する。</p> <p>③ 「開かれた学校づくり」の一環として授業公開の評価は高く、実施時期や実施方法等の周知方法について検討し、今後も来校・参観者の増加に努める。</p>
-----------------	---	---